

## 感染症情報 9月30日～10月6日

府下小児科196医療機関(堺市19)から

①RSウイルス感染症	695例(堺市	81例)
②感染性胃腸炎	640例(堺市	34例)
③溶連菌感染症	288例(堺市	26例)
④手足口病	161例(堺市	11例)
⑤伝染性紅斑	151例(堺市	14例)

府下インフルエンザ定点300医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 93例(堺市 4例)

感染症報告数は前週比3.0%増の2,274件であった。

報告数の第1位はRSウイルス感染症で、以下、感染性胃腸炎、溶連菌感染症、手足口病、伝染性紅斑の順であった。

RSウイルス感染症が府下で8%減、堺市で103例→81例(21%減)であった。府下の定点あたりは3.85→3.55、同堺市で5.42→4.26である。感染性胃腸炎は府下で前週と比較して14%増、堺市では17%増であった。溶連菌感染症は府下で前週と比較して2%増、堺市で31例→26例は16%減であった。手足口病は府下で3%減、堺市で17例→11例であった。伝染性紅斑は府下で26%増、堺市で10例→14例であった。

インフルエンザが府下で前週90例→今回93例は3%増で、定点当たり0.30→0.31である。堺市では前週、今回とも4例であった。麻疹や風疹の報告はなかった。